

勝連: 百度踏揚（ももとふみあがり）

15世紀初期の王女・百度踏揚の波乱に満ちた運命は、彼女が生きた動乱の時代を反映しています。当時の歴史上の人物のほとんどと同様、彼女の正確な生没年は分かっていません。百度踏揚は、首里城を拠点とした琉球王国の尚泰久王の娘でした。王家の主要な女性が皆そうであったように、彼女も女性祭司であり、神に通じる強い力を持っていると信じられていました。勝連城主である阿麻和利が勢力と影響力を強めると、尚泰久王は彼を潜在的な脅威とみなすようになりました。そこで、百度を阿麻和利に嫁がせ、婚姻関係と地位を与えることにより阿麻和利が王座を狙って挙兵することを防ごうとしました。百度が首里城から勝連城に移った際、彼女は付き人であり護衛でもある鬼大城（おにうぶぐすく）と一緒に連れてきました。

1458年は悲劇的で波乱に満ちた年でした。百度は、大城と一緒に首里城に逃げ、父親に阿麻和利が彼を攻撃して王座を奪おうとしていることを警告しました。阿麻和利は中城城で政敵の護佐丸を攻め、打ち破りましたが、その後すぐ勝連で大城の率いる琉球王国軍に敗れました。百度は父親の王国を救いましたが、そうすることにより自分の夫を裏切り、寡婦になりました。彼女は、その後領主の地位を授けられた護衛の勇士鬼大城と結婚しました。しかし、数年の後に尚泰久王の王朝は滅び、大城は殺されました。政治の潮流により、二人の夫を亡くした悲劇の女王は、彼女の墓がある玉城村（現在の南城市玉城）で静かな亡命の余生を送りました。